

ゲルマニア会懇話 『教員として体験したドイツの大学』とは

昨年 11 月 11 日に開催されたゲルマニア会の秋季世話人／有志会においてゲルマニア会会員で現在専修大学の経営学部教授でいらっしゃる西口拓子（にしぐちひろこ）氏からお話を伺いました。

西口教授が世話人会で参加者に配られた資料のタイトルは、

「教員として体験したドイツの大学 — アメリカ化する大学?」というものです。

皆様はオーペア（フランス語=au pair）をご存知でしょうか。インターネットでは次のような解説が出ております。それは《外国の家庭に住み込んで寝食の代わりに家事を手伝う若い外国人；通例 女性で、しばしば 外国語を学ぶのが目的》というものです。教授はオーペアに Sondershausen と Oranienburg で 2 回参加されたそうです。

西口教授は「ゲルマニア」20 号に「カッセル大学で担当した授業のこと」を寄稿されたことがありますので、憶えていらっしゃる方がいるかと思いますが、東外大において「グリム童話」に関する論文で博士号を取得された方です。

西口教授は 1992 年から 1993 年にかけて文部省派遣留学生としてゲッティンゲン大学に留学されましたが、2011 から 2012 年にかけてランダウ大学、2015 年から 2016 年に懸けて（1 セメスター）カッセル大学などでグリム童話に関わることを教授としてお教えになりました。現在は専修大学の経営学部教授として仕事をされています。

先生のご専門は「グリム童話」ですが、今回は先生がご用意された資料に基づきドイツの大学に関する事項を簡単にご紹介させていただきます。まず大学のあり方に関する専修大学と東外大のシステムの相違ならびにドイツの大学との比較です。

まずは授業料の比較です。

	<u>専修大学 (2018)</u>	<u>外語大 (2017)</u>
入学金	26 万	28.2 万
授業料	73.2 万	53.58 万
施設費	23 万	
教育充実費	2 万	
<hr/>		
初年度合計	126.6～145.6 万	81.78 万
ドイツの連邦奨学金 (Bundesausbildungsförderung) :		50%が給付 50%が無利子貸与

ちなみに、私は 1959 年東外大に入学しましたが当時の学費は、次のようなものでした。

入学金： そのようなものがあつたかどうか、憶えていません。

授業料： 月額¥9,000 （前年まで¥6,000 でした）

当時私立大で一番安かつたのは、たしか上智大学が 4 万円、青山大学が 6 万円と憶えています。私は両親が早く亡くなり、中学卒業と同時に就職するような環境でしたから、何が何でも授業料の安い国立を目指したのですが、現在の授業料には目を丸くするばかりです。

さて西口教授が専門とされた「グリム童話」ですが、これは有名な童話でありますし、ドイツ語を専攻された皆様にはなじみの深いものと存じますが、それが何故博士学位申請に繋がるのか、ドイツの童話は子供のときから一通りは知っているつもりでしたが、その裏話は今回西口教授のお話を伺うまでまったく知りませんでした。

それは、教授の博士論文の主査審査員であつた谷川道子教授の書かれたものによると、グリム兄弟による『子どもと家庭のための昔話集『Kinder- und Hausmärchen』』は一方で昔話の忠実な収集に先鞭をつけたとして高く評価されながら、他方でその後の民俗学の発展において、グリム兄弟が採話に改版の過程で「加筆」していたという理由で民話としての「信憑性」がないという批判を浴び、「Volksmärchen」と「創作昔話 Kunstmärchen」というどちらの категорияにも収まりきらないものとみなされるようになったとのことです。西口教授の博士学位の申請論文【グリム『昔話集』——グリムの加筆と「神話へのまなざし】は、

第1にその「加筆」の実態を精密に分析しながら、むしろそれにもかかわらずこれまで考察されてこなかつた「加筆されなかつた」点に注目し、

第2にそこから個々の具体的な関連の指摘において昔話を「神話」の残滓とし見なしていたグリム兄弟の童話集の昔話観をうかびあがらせつつ、その上で

第3に、他の同時代の昔話（集）と比較、考察することによって、グリム『昔話集』の独自の位置を見定めようとするものである。

とされています。

以下には、教授が当日お配りになつた資料から抜粋したものをご紹介します。

これまでのドイツの大学

表1 大学制度の比較（ドイツと日本）

	ドイツ	日本
大学入学制度	アビトゥーア試験に合格し大学入学資格を取得。入学試験はない。	個々の大学が入学試験を実施。実施主体は、各大学。
卒業の概念	国家試験、ディプローム試験、マギスター試験に合格し、大学に「退学届」を出すことが卒業。	所定の単位を取得し、学士号を付与されることが卒業。
大学教授の任用	大学教授資格試験に合格しなければならない。	資格試験の制度はない。各大学ごとに採用される。
授業料	無償	有償
大学の設置形態	国立（staatlich, 州立） 私立は少数	私立が役7割を占める。国立大学も法人化されている。
大学間の格差	建前としてはない。	誰もが大学間の格差を認識している。

大学マネジメント Feb 2014 Vol.9, No.11 13

・ 大学を評価対象に一授業評価アンケート：

エリート大学 Elite-Uni

2005年6月「ドイツの大学における学術および研究の促進に関する連邦と州のエクセレンス・イニシアティブ協定」 研究拠点、重点的な女性

↓

2006年10月「高等教育に関するエクセレンス構想」3校

「先端大学」カールスルーエ工科大学、ミュンヘン大学、ミュンヘン工科大学

2007年10月第二次分 6校

アーヘン工科大学、ベルリン自由大学、フライブルク、ゲッティンゲン、ハイデルベルク、コンスタンツの各大学

・ アメリカ化？ --- 木戸裕氏の報告より

- ・ 1980年代から、世界的に大学改革、「ボローニャ・プロセス」 ⇒ ヨーロッパ共通の単位制度（ECTS）へ
- ・ 授業料の徴収。私立大学の創設 ⇒ アメリカ型の私立ロースクール、経営学、経済学、会計学などを専門とする私立大学の設置
- ・ アメリカで発達してきた評価システムの採用
- ・ 大学ランキングも登場。「エリート大学」
- ・ 「グローバル化」と「制度の共通化」 ⇒ 「アメリカ化」

ボローニャ・プロセス

1998年「ソルボンヌ宣言」英国、ドイツ、フランス、イタリアの4か国

⇒ 1999年「ボローニャ宣言」に29か国が署名 ⇒ 2017年ボローニャ・プロセス10周年、47か国

2010年までの到達目標： 6項目（木戸2008より）

- ① 容易に理解でき、比較可能な学位システムの確立
- ② 学部、大学院という2サイクルの大学構造の構築
- ③ 単位互換制度“ECTS”の導入と普及
- ④ 学生、教員の移動の促進
- ⑤ ユーロッパ・レベルでの質保障の推進（高等教育の質の保証にかかわる比較可能な基準と方法論を開発）
- ⑥ 高等教育におけるヨーロッパ次元(European Dimension)の促進（カリキュラム開発、研究プログラムなどヨーロッパという視点に立った、高等教育機関間の協力と一体化）

今日のヨーロッパの大学は「ひとつのヨーロッパ」を視野に置いた高等教育改革を進めつつ、同時に方向性としては「評価」と「競争」を主体としたアメリカ型の大学へと次第に移行しつつある（木戸2005年）。

学生数

《ドイツ》

1950年台	⇒	1980年代	⇒	(2007・8年)	⇒	2012/13年冬学期
10万人台		100万を突破		(1,941,800人)	⇒	2,499,409人
				36% 卒業 21%		4割超が入学

《日本》

1993年	⇒	2009年
約240万人		約285万人
(1980年後半25%)		50超

大学数

《ドイツ》

1950年	⇒	1989年	(2007・8年)	⇒	2012/13年冬学期
143校		243校	391校以上		427校

《日本》

1985年		2009年
450校程度		うち国立大学86校、公立83校、私立593校

学士号の取得

1988年「大学大綱法」(Hochschulrahmengesetz)の第4次改正

- 従来の制度と並行し、学士(バチェラーBachelor)、修士(マスターMaster)課程を導入。(第19条)
- ECTSに対応させた「単位制システム(Credit Point System)の導入(第15条第3項)。ヨーロッパ各国の大学との間で、学習成果の比較・互換を可能とする制度を普及させつつある。

大学法 Hochschulgesetz にもとづいた各大学の試験規則 Prüfungsordnung

試験は、モジュール試験、モジュール部分試験、学士論文から成り立つ。

(Baden-Württemberg の例)

モジュール試験、モジュール部分試験

ECTSの割合

- | | |
|---|--|
| a. 口述試験 | [A] = 「合格」(上位 10%) |
| b. 筆記試験、レポート(Hausarbeiten)、
プロトコルの作成 | [B] = 「合格」(次の 25%)
[C] = 「合格」(次の 30%) |
| c. 講演形態 | [D] = 「合格」(次の 25%) |
| d. 口頭による報告 | [E] = 「合格」(次の 10%) |
| e. 演習またはテスト問題 | [F X] = [不合格](成績が承認されるためには改善が必要である) |
| f. a から e のコンビネーション(以下略) | [X] = [不合格](相当の改善が必要である) |

Erasmus などの留学生へ対応 → イタリア人4名。ECTSの英文科の例
(カッセル大学 ES2015/16)

筆記試験に合格	4 ETCS-Punkte
PS レポート(筆記試験の代り)	5 ETCS-Punkte
HS レポート	6 ETCS-Punkte
HS レポート(筆記試験の代り)	7 ETCS-Punkte
口頭試験	3 ETCS-Punkte
年賑な参加のみ。試験、レポートなし。	2 ETCS-Punkte

出席、「参加証」Teilnahmeschein, Asta, コメントシート

学生が選択(参加証のみ、レポート、筆記/口頭試験)、採点締切

授業評価アンケート

難民、学生アルバイトの募集

一講座に教授は一人

資料(西口教授が配布されたものではありません。ご希望の方は、ご自分でお求めください。)

- ・木戸裕(2009)「現代ドイツ教育の課題—教育格差の現状を中心に—」レファレンス
2009.8
- ・木戸裕(2012)『ドイツ統一・EU統合とグローバリズム—教育の視点からみたその軌跡
と課題』東信堂
- ・木戸裕(2014)「ドイツ大学改革の今」、国立大学マネジメント研究会『大学マネジメン
ト』 9(11)
- ・潮木守一(2008)『フンボルト理念の終焉? 現代大学の新次元』東信堂
- ・海老原嗣生(2009)『学歴の耐えられない軽さ やばくないか、その大学、その会社、そ
の常識』朝日新聞出版
- ・辻義人 小樽商科大学 FD コラム (了)

ゲルマニア会会員 宍戸 武志 (D1963)